

☆トラのお話 トラナンデス☆

日時・期間 1・2月の土日、祝日
14:30~14:45

開催場所 「林床の世界」トラ舎前

飼育スタッフがトラの生態を説明した後、
当園のトラ「ミライ」がエサを食べる様子
をご覧ください。

当園で人気の「ライオンのバリバリタイム」では、
あっという間になくなってしまいうエサですが・・・
トラのミライは、どんなふう食べるのでしょうか？
いつもは見ることのできない、ミライのお食事風景です。
ぜひ、「トラのお話トラナンデス」をお見逃しなく。



☆ロバ乗馬☆

日時・期間 毎日実施中！
受付時間 10:00 ~ 12:00
13:00 ~ 15:00

※ 雨天時は、中止になります。

※ お客様が多い場合は、早めに受付を締め切ることがあります。

開催場所 「ふれあい動物園」ロバ舎横 ロバのりば

参加費 1周200円 ※入園料は、別途必要です。

当園では、30kg以下のお子さまはロバに乗ることができます。
スタッフがロバをひいて、運動場を一周します。



森のお便り 2月号 2016年

発行・編集 「到津の森公園」「森の仲間たち」16年2月1日発行 通巻156号

☆森のおはなし探検隊☆



今月のテーマは、『サル・体感！』

さるの特性を体験！
クイズに答えて、サルについて詳しくなろう！
もっともっとサルのが知りたくなりますよ！
多くの方の参加をお待ちしています！

開催日時 2月14日(日) 13:00~

開催場所 子どもホール

参加費 無料(別途要入園料)・事前予約不要



★ゆめある動物園プロジェクト★

「うちの紙さま~大切な人に手紙を送ろう~」

日時 2月21日(日) 13:00~15:00

定員 5組 (1組5名様程度)

要事前予約 2月3日から電話にて先着順に受付

動物のフンを使ってはがきを作り、
それにメッセージを書いて大切な人に送ります。

天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承下さい。
詳しくは、HP もしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問い合わせ下さい。

森の仲間たち



「到津の森公園」公園事務所
北九州市小倉北区上到津 4-1-8
Tel 093-651-1895 〒803-0845
<http://www.itozu-zoo.jp/>

花暦 如月

冬本番、「到津の森」も北九州名物からっ風が通り過ぎる。落葉樹はすっかり裸となり、その冬芽は何枚もコートのような皮を重ね着したり、ネコヤナギのように毛の付いた皮を着込んだ寒がりさんもいます。さすがの常緑樹もかじかんだような色あせた葉が、枝にしがみ付いて寒さに耐えています。

さてこんな冬の日でも野性の生き物の観察ができますよ。落ち葉の積もった吹き溜まり、古い木の皮の隙間、寒風をやり過ごす草群などを、よく覗いてみると・・・コオロギやバッタの卵、小枝にはカマキリの卵、土の中にはカミキリムシやカブトムシの卵。暖かい日にはアブ・テントウムシ・カメムシ等の成虫にも出会えます。

草花も小さな花穂をつけたスズメノカタビラ・タバコ等のタンポポの仲間、スマレ・ヒヨコグサ等の小花。池にはカイツブリやカルガモ。こんもりした常緑の木の葉っぱの中にも、何やら小鳥が集まってチュクチュクささやき合っています。

そういえば種々の赤い実でいっぱいだった園内も、鳥の餌となったのか、少なくなったなと思いつつ、ぼつぼつ歩くとライオンとキリン運動場の間にピラカンサの茂みの赤い実が目に入りました。明治時代に移入されたピラカンサは、庭木・垣根・盆栽にあるいはトピアリーにと親しまれて、和洋どちらの庭にも調和する気がしますが、最近ちょっと人気低迷気味。春にはコデマリのような小花をびっしりつけ、秋には赤く美しい実が春先まで残っていて楽しめます。

遅くまで残るのは鳥には美味しくないと勘ぐりますが、それもそのはず、実には青酸系の毒素があり、人がかじっても異常に不味く、味はいつまでも口に残り気分が悪くなるとか。春を前にして毒が薄くなり、他に餌を見つけ辛くなった頃、鳥が食べ始めるようです。

ピラカンサと同じ時期、赤い実のたくさんついた低木として、日本固有種のウメモドキ(モチノキ科)があり、野趣あふれる風情が愛されていますが、野性のものは絶滅の危機にあります。

子供の頃、遠目に赤い実がたくさんついた低木が見えて、ピラカンサと教えられ、信じきっていたのはツルウメモドキ(ニシキギ科)でした。ウメモドキと共に、実が3つに割れて中の赤い種子が美しく、生花やクリスマスリースに利用されます。冬の園内は何もないようにみえて、越冬中の生き物の姿が興味深く見られます。ミモザ(ギンヨウアカシア)も今年は早く咲きそうです。

到津の生き物たちは春を！そして皆さんの来園をお待ちしております。

文：花咲くおばさん

森の仲間たち・スノーモンキー

スノーモンキー

現在、到津の森公園のサル山には、47頭のニホンザルが暮らしています。去年の夏に産まれた2頭の赤ちゃんもすくすくと成長し、そのかわいらしい姿に多くのお客様が癒されているようです。

さて、ニホンザルは、人間を除くサルの仲間のなかで、もっとも北に生息しているサルになります。(北限は、青森県の下北半島に分布するサルたちで、北限のサルとも呼ばれています。)ニホンザルは、雪が積もる中でもたくましく生活する姿から、スノーモンキーと呼ばれることもあります。

到津の森公園では、頻りに雪が積もるようなことはありませんが、やはりスノーモンキーと言われるだけあって、寒さには強いようです。雪の上を平気で歩き回り、中には雪を食べたりするものもいます。ただ、どうしても寒い日は、仲間同士で押しくらまんじゅうをするように寄り添い合い、暖をとる姿が見られます。その様子は、皆さんご存知のとおり、「さる団子」と呼ばれています。

雪の日にはぜひ、雪だるまのように丸くなったスノーモンキーたちが、たくましく生きる姿をお楽しみください。



飼育展示係 石橋 祐一